

OpenSpaceを使用することにより、ゼネコンとのコミュニケーションを改善したCEC社の例

テキサス州アービングに本拠地を構えるMEP-T（機械/電気配線/配管/技術）請負業者は、太陽光発電所から歴史的建造物修復まで、幅広いプロジェクトでOpenSpaceを活用しています

目的：映像記録を作成し、ゼネコンとのコミュニケーションを改善する

MEP-T全般に対応するCEC Facilities Groupは、作業を開始する前に、現場の状況を正確に提示する必要があります。網羅的かつナビゲートしやすい映像記録を素早くゼネコンに示し、現場の状況を正確に説明することは、極めて重要な作業の一つです。

他の建設技術を調査し、実際に使用してみる中で、機能性と同様に使いやすさも極めて重要であることをCEC社は認識していました。

「建設現場で働くスタッフにとって時間は極めて貴重です。当社が導入するすべての新しい技術は、チームにこれまでの技術以上の価値を提供する必要があります。技術の導入が面倒くさいものであれば、チームは新たな技術の導入を躊躇し、従来のツールや技術を使い続けるほうを選ぶでしょう」と、CEC社のプロジェクトコントロールディレクターであるジェード・ペイナード (Jared Peinado) 氏は断言します。

戦略：OpenSpaceを使用して、各現場で包括的な映像記録を週に1~2回作成する

CEC社の現場スタッフは、幅広いプロジェクトでOpenSpaceを使用し、現場の最新状態を示す映像記録を作成しています。

現在進行中のプロジェクトには、西テキサスの過疎地域での延床面積約743万平米の太陽光発電所があります。そこでは、チームが200万箇所の電気配線およびデイジーチェーン配線された無数のパネル列をジップタイ固定する必要があります。

OpenSpaceを使うことにより、品質管理チームは書類作成にかけていた時間を、物事の解決に当てることができるようになりました」

ジェード・ペイナード氏、CEC社プロジェクトコントロールディレクター

OpenSpaceを導入する前は、10人いる品質管理チームは、検査要件を満たすため、各自が携帯電話で各接続箇所の写真を撮影していました。しかし今では、360°カメラをヘルメットに固定して現場を歩きながらそれぞれの作業をするだけで、OpenSpaceが自動的に現場をキャプチャし、設計図に画像をピン留めしてくれます。

また、チームは現場ノート機能を使用して、パンチリストを更新することも、作業箇所が他の業者により誤って損傷を受けた場合や、現場の状況によりCEC社が作業を開始できない場合などに、これを文書化することができます。チームは写真を撮り、コメントを入力するだけで、画像とテキストが自動的に設計図にピン留めされるため、メモ帳にコメントを書き留め



て、それが現場のどの箇所のものだったかを後で思い出すよりも簡単です。また、すべての「タグ付き」アイテムを含むレポートを自動的に作成することもできます。

「これは、品質管理チームにとって極めて大きなことです」と、ペイナード氏は語ります。「書類作成にかけていた時間を、物事の解決に当てることができるようになりました」

また、延床面積約3.2万平米のダラス郡レコードビルの改修でも、OpenSpaceが活用されました。これは、年代の異なる3つの建造物が結合した複雑なプロジェクトです。また、半導体大手企業の大規模な製造工場でもOpenSpaceが導入され始めています。

記録の正確性かつ網羅性により、プロジェクトの遅延に関する苦情がある場合にも当社に過失がないことを証明するのに役立っています

ジェード・ペイナード氏、CEC社プロジェクトコントロールディレクター

結果：ゼネコンとの連携および関係管理を改善

品質管理チームが週に1、2回OpenSpaceを使用して現場を歩くだけで、CEC社は完了済み作業に関する証拠となる記録を簡単に作成することができます。また同社は、進捗状況追跡のため、OpenSpace ClearSightを試験的に導入することを計画しています。これにより、支払い申請作業が簡単になるだけでなく、1日ごとにどれほどの作業を完了したかをパーセンテージで正確に示すことができるため、ゼネコンからの信頼を強化できるでしょう。

これまで、OpenSpaceは次の側面で有意義な変化をもたらしてきました。

- **時間の節約**：OpenSpaceを使うことで、品質管理チームは現場の状況の文書化にかかる時間を数時間も節約してきました。また、現場を歩きながら別の作業をすることができたため、生産性も向上しました。それだけではありません。ゼネコンや他の下請け業者との定期報告ややり取りにかかる時間も節約しています。「写真を素早く提示してしまうだけで、何時間もかけて状況を説明するためにメールや遅延レターを出す必要がないことは、言い尽くせない価値があります」と、ペイナード氏は言います。
- **問題解決およびコミュニケーション強化**：CEC社では現在、リスクを軽減し、ゼネコンとのコミュニケーションを改善するために、OpenSpaceを主に使用しています。「記録の正確性かつ網羅性により、プロジェクトの遅延に関する苦情がある場合にも当社に過失がないことを証明できます」と、ペイナード氏。OpenSpaceが遅延の原因がCEC社ではないことを証明するので、ゼネコンが工期が押していると圧力をかけてきても、期限の延長をリクエストしやすくなりました。もちろん、日々のやり取りもスムーズになりました。たとえば、ゼネコンのプロジェクトマネージャーが会議中に、特定のエリアで電気工事を進めて欲しいと言ってきたとしても、CEC社は直近の写真を提示し、その前に完了すべき項目があることを示すことができるため、会議にいる全員が現状を素早く把握できます。
- **ユーザーエクスペリエンス**：他のチームにもOpenSpaceを勧めるうち、ペイナード氏は、あまり技術に詳しくない年配の社員でさえもOpenSpaceを直感的に使えることがわかりました。「スキルレベルに関係なく、とても使いやすいんです」と、ペイナード氏は言います。OpenSpaceがほかのテクノロジーと決定的に違うのは、その使いやすさです。たとえば、Matterportは、引き渡し時に現況をクライアントに説明するのに便利かもしれませんが、プロセスが複雑すぎて、現場での日々のドキュメント作成には使用できません。